



作者：洋画家 岡崎 洋児氏 昭和16年生 珠洲市狼煙町

「東京奥能登応援団のホームページ」アドレスは <http://okunoto.net> です。

「いむむ」

アイアンティティ

⑰

ユネスコ無形文化遺産『あえのじゆ』
奥能登の農家に守り伝えられた民族行事『あえのこと』が、国連食糧農業機関から2011年6月に伝統的な農業文化の里山里海として日本で初めて世界農業遺産に認定された。

「承のように『あえのこと』とは、『あえ』は饗応を意味し「こと」は祀りの別称であると伝えられてきた。12月5日に田の神を我が家に招き、風呂に入れ、1年の収穫に感謝してご馳走を振る舞うのである。田の神はその家でひと冬を越すと、翌2月9日にはこの年の豊作豊穰を祈願して田に送り出されるという神事である。

私の家でも父が戦争に採られていたので、幼い私が主人役となって風呂を沸かし、玄関先の石垣の所まで出向き『田の神様』を迎える。「お待ちしていました。どうぞどうぞ此方へ。」と、まるで実際に神客がいるかのように導き、風呂に案内する。タオルを渡し「湯加減は如何でしょうか。」などと丁寧にもてなすのである。母は田畑山海の幸を料理し繕って神棚に供える。妹たちと柏手を打って「この1年有難うございました。くつろいでお召し上がりください。」と感謝の祈りをする。雪は降り神宿る家で共に春を待つ。野良立ちの季節を迎えて「今年もお願ひします。」と祈禱儀式を行い田圃へ送り出すのである。

戦争に敗れて、いつとはなくこの風習は途絶えていった。古式床しい仕来りが身の回りから剥ぎ取られる風潮であった。そして今日自然と人間とが一体となって創り上げた伝統文化の価値を幾ら問い直しても過分ではない。

ユネスコ無形文化財として登録された我が奥能登『あえのこと』は、農民文化の心として後世に伝えたい郷土が誇る伝統である。

(押上武文 〔府中市・宝立町出身〕)



飯田高校創立百周年記念式典

東京からも参加し盛大に開催
 去る10月21日、珠洲市野々江町の飯田高校第一体育館において「飯田高校創立百周年記念式典」が厳粛かつ盛大に挙行された。
 式典には、教職員、在校生の外、同窓生750人が出席。東京支部からは谷辰夫支部長以下15人が参加した。
 式典では、井下守校長が「本校は能登の拠点校として里山里海を始めとする能登文化の継承・育成を担ってきた。一万五千人余の人材を輩出し、文武両道の校風で石川の未来を

担う人材の育成に努める。」と式辞を述べた。
 谷本知事の祝辞に続いて百周年行事実行委員会西山郷史会長が「清・慎・勤の伝統を受け継ぎ更に個性を伸ばしていこう。」と挨拶したほか泉谷珠洲市長が祝辞を述べた。
 歴代校長を代表して太田信夫氏、功労者として谷克巳氏らに感謝状が贈呈された後、生徒会長の新谷麻姫(3年)さんが「喜びの言葉」を述べた。
 次いで作曲家・指揮者の伊東乾氏が「知を楽しむ、楽を知る。生命の躍動について」と題して記念講演し、校歌の歌詞を解説しながら学校の歴史と伝統に触れた。最後に生徒会長の新谷さんが「大きな志を持ち、不断の努力を積み重ねて次の百年をつくる礎になります。」と誓った。
 珠洲ビーチホテルでの記念祝賀会には、同窓生ら120人が参加し、恩師を囲んでの歓談等で懇親を深めた。

謹賀新年

石川県人会 名誉会長 会 長 専務理事 総務委員長 事業委員長 広報委員長 ふるさとフェスタ推進委員会 委員長 能登担当副委員長 事務局	前田 利祐 石田 寛人 西 喬 真鍋 邦夫 坂本 哲 山田 外彦 光眞 章 本田ゆり子 大平紀代子 石糸 歌子
東京珠洲会 会 長	笠原 英二
飯田高校同窓会東京支部 支部長	谷 辰夫
首都圏能登町会 会 長	(改選中)
東京柳田会 会 長 事務局長	木村 春夫 内平由美子
東京輪島会 会 長	寺沼 幸子
東京穴水会 会 長	小川 洋
さいたま石川県人会 会 長	安田 正

新年のご挨拶

皆様お揃いで新春をお迎えのこととお慶び申し上げます
 さて 奥能登応援団は平成二〇年七月に創立し今年で丸五年になります 「奥能登の振興に首都圏在住の出身者の支援を！」との地元の要請に応えるべく手探りで活動を進めてまいりました 紆余曲折はありましたが昨年のいしかわ県人祭には三〇人を超える参加者を得て ふるさと会の中で最高の動員を誇る一大勢力となりました
 活動趣旨と「誰でもが応援団長」にご理解ご賛同いただいたことの表れと受け止めております 皆様のふるさとに寄せる熱い想いを糾合し 地元との架け橋になるように今後一層努力してまいりたいと思っております 引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます
 東京奥能登応援団
 代表 表 光眞 章
 事務局長 乙丸 秀次

事務局からのお願い

ホームページの一層の充実と行動の拡大を目指して、当「応援団だより」は、インターネットの普及の現状から速報性や通信経費等を勘案し、ホームページ掲載を念頭に編集しております。

小紙読者の皆様には大変恐縮でございますが、引き続き印刷紙の配達購読を希望される方は、所定の申込み用紙(郵便振込)にて「石川県人会報」の紙友(年間購読料500円)にご加入いただき、石川県人会へお申し込みください。ようお願い申し上げます。同紙とともに本日より関係資料を季刊4回にてお送りいたします。

当応援団は、県及び関係市町や石川県人の各ふるさと会、各商工団体との連携を求められることもあり、より幅広い活動を展開していきたいと考えております。当面は石川県からの「北陸新幹線開業」に向けた宣伝や物産展など、首都圏で行われる各種の行事に積極的に参加したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。